

# CASIO CORPORATE REPORT 2009

>>> 資料

## 参考資料集

---

2009年6月

**CASIO**

- 2009 年度 カシオ環境行動目標 ..... ページ②③
- 2008 年度 カシオ環境行動目標実績報告（詳細版） ..... ページ④
- マテリアルバランス（続き・エレクトロニクス機器事業） ..... ページ⑤
- マテリアルバランス（続き・デバイス事業） ..... ページ⑥
- CO<sub>2</sub> 排出量の推移（続き・エレクトロニクスとデバイス） ..... ページ⑦
- 廃棄物の削減（続き・エレクトロニクスとデバイス） ..... ページ⑧
- 水の削減（続き・エレクトロニクスとデバイス） ..... ページ⑨
- PRTRの削減（詳細） ..... ページ⑩
- VOC の削減／NO<sub>x</sub>、SO<sub>x</sub>、ばいじんの削減 ..... ページ⑪

I 製品にかかわる行動目標

1. 環境適合型製品の開発目標

2012年度 カシオグリーンスター商品の売上比率30%

II 工場・事業所にかかわる行動目標

1. 省エネルギー目標（電力・燃料など）

**国内生産拠点** 実質生産高 $\text{CO}_2$ 原単位を、1990年度に対し、2008年から2012年度（5年間）の平均値で35%削減

**国内オフィス拠点**  $\text{CO}_2$ 排出総量を、1990年度に対し、2008年から2012年度（5年間）の平均値で9%削減

**海外生産拠点** 生産高 $\text{CO}_2$ 原単位を、2004年度に対し、2012年度までに30%削減

**海外オフィス拠点**  $\text{CO}_2$ 排出総量を2004年度に対し、2012年度までに3%削減

2.  $\text{CO}_2$  以外の温室効果ガス削減目標

2010年までに、 $\text{CO}_2$ 以外の温室効果ガス総排出量（ $\text{CO}_2$ 換算）を2000年排出量以下とする

3. 省資源目標（水、紙）

**国内生産拠点** 水使用量の実質生産高原単位を、2000年に対し、2012年度までに、25%削減

**海外生産拠点** 水使用量の生産高原単位を、2004年度に対し、2012年度までに15%削減

**国内拠点** オフィス用紙使用量の売上高原単位を2007年度に対し、2012年度までに10%削減

4. 廃棄物削減目標

**国内拠点** 廃棄物発生量の実質生産高原単位を2000年度に対し、2012年度までに50%削減

**海外生産拠点** 廃棄物発生量の生産高原単位を2004年度に対し、2012年度までに30%削減

II 工場・事業所にかかわる行動目標

5. VOC（揮発性有機化合物）削減目標

国内生産拠点 VOCの 대기排出量を2000年度に対し、2010年度までに30%削減

6. 有害物質の使用廃止目標

保管中のPCB含有機器を日本環境安全事業（株）のエリア別事業状況に合わせ無害化処理を行う  
・甲府カシオ：2014年まで

※八王子技術センターで保管中の低濃度コンデンサを含む安定器については、受入可能となるまで保管を行う

7. PRTR法対象化学物質の排出量削減目標

国内生産拠点 対象化学物質の排出量実質生産高原単位を2003年度に対し、  
2012年度までに40%削減

8. グリーン調達の実施目標

2010年度グリーン部品調達率（資材発注全部品に対するグリーン部品の率）  
国内/海外拠点 100%

9. グリーン購入の実施目標

2009年度国内拠点の文具、事務用品、OA機器類のグリーン購入比率70%（件数ベース）  
※CATS e-Pシステム導入拠点を対象

10. 物流の温暖化対策目標

国内物流によるCO<sub>2</sub>発生量を、国内売上高原単位で2009年度に2000年度比40%削減  
（削減対象範囲は、製品・販売物流工程の削減値）

海外物流によるCO<sub>2</sub>発生量を、海外売上高原単位で2009年度に2004年度比5%削減  
（削減対象範囲は、製品・販売物流工程の削減値）

### 2008年度 カシオ環境行動目標実績報告(詳細版)

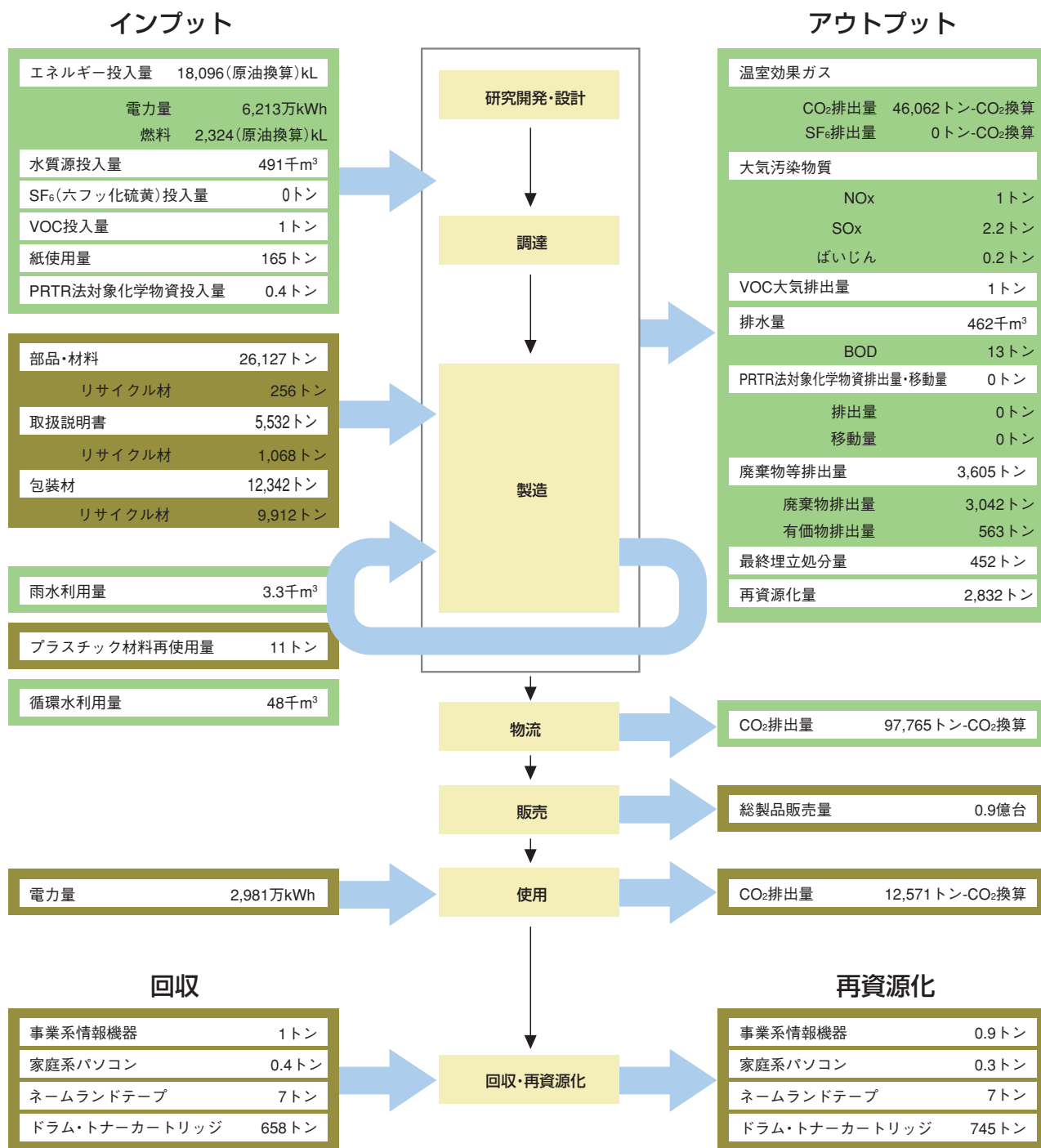
下段 ( ) 2007年度 上段: 対基準年度比 下段: (対前年度比)

	活動テーマ	目標	基準年 原単位など	目標年 目標原単位など	2008年度 実績原単位など	2008年度末 までの実績	達成度 自己評価
<b>製品にかかわる行動目標</b>							
1: 環境適合型製品	グリーン商品売上高比率の向上	2008年度までに売上高比率を80%にする	—	80%	84%	達成率105%	2008年度 ☆☆☆☆
<b>工場・事業所にかかわる行動目標</b>							
1: 省エネルギー (電力・燃料等)	CO <sub>2</sub> 排出量の削減 (国内生産拠点)	実質生産高原単位を1990年度に対し、2008年から2012年度(5年間)の平均値で35%削減	0.312 (トン-CO <sub>2</sub> / 百万円)	0.183 (トン-CO <sub>2</sub> / 百万円)	0.181 (0.205) (トン-CO <sub>2</sub> / 百万円)	42.0%減 (11.7%減)	2008年度 ☆☆☆
	CO <sub>2</sub> 排出量の削減 (国内オフィス拠点)	CO <sub>2</sub> 排出量を1990年度に対し、2008年から2012年度(5年間平均)の平均値で9%削減	11,492 (トン-CO <sub>2</sub> )	10,458 (トン-CO <sub>2</sub> )	9,655 (9,350) (トン-CO <sub>2</sub> )	16.0%減 (3.3%増)	2008年度 ☆☆☆
	CO <sub>2</sub> 排出量の削減 (海外生産拠点)	生産高原単位を2004年度に対し、2012年度までに30%削減	0.235 (トン-CO <sub>2</sub> / 百万円)	0.164 (トン-CO <sub>2</sub> / 百万円)	0.291 (0.272) (トン-CO <sub>2</sub> / 百万円)	24.3%増 (7.2%増)	●
	CO <sub>2</sub> 排出量の削減 (海外オフィス拠点)	CO <sub>2</sub> 排出量を2004年度に対し2012年度までに3%削減	5,099 (トン-CO <sub>2</sub> )	4,946 (トン-CO <sub>2</sub> )	6,493 (6,489) (トン-CO <sub>2</sub> )	27.3%増 (0.1%増)	●
2: 温室効果ガス削減	CO <sub>2</sub> 以外の温室効果ガス総排出量(CO <sub>2</sub> 換算)を2000年排出量以下にする	2010年までに総排出量を2000年排出量以下とする	7,278 (トン-CO <sub>2</sub> )	7,278 (トン-CO <sub>2</sub> )	18,021 (21,032) (トン-CO <sub>2</sub> )	147.6%増 (14.3%減)	☆
3: 省資源(水・紙)	水使用量の削減 (国内生産拠点)	実質生産高原単位を2000年度に対し、2008年度までに10%削減	0.0077 (千m <sup>3</sup> / 百万円)	0.0069 (千m <sup>3</sup> / 百万円)	0.0061 (0.0072) (千m <sup>3</sup> /百万円)	20.5%減 (15.9%減)	☆☆☆☆
	水使用量の削減 (海外生産拠点)	生産高原単位を2004年度に対し、2012年度までに15%削減	0.0039 (千m <sup>3</sup> / 百万円)	0.0033 (千m <sup>3</sup> / 百万円)	0.0031 (0.0031) (千m <sup>3</sup> /百万円)	20.1%減 (0.6%増)	☆☆☆
	紙使用量の削減 (国内拠点)	実質生産高原単位を2003年度に対し、2008年度までに30%削減	0.00025 (トン/百万円)	0.00018 (トン/百万円)	0.00035 (0.00028) (トン/百万円)	37.5%増 (26.5%増)	●
4: 廃棄物排出量	廃棄物発生量の削減 (国内拠点)	実質生産高原単位を2000年度に対し、2008年度までに40%削減	0.024 (トン/百万円)	0.0017 (トン/百万円)	0.014 (0.016) (トン/百万円)	41.8%減 (14.5%減)	☆☆☆☆
	廃棄物発生量の削減 (海外生産拠点)	生産高原単位を2004年度に対し、2012年度までに30%削減	0.012 (トン/百万円)	0.008 (トン/百万円)	0.0124 (0.0110) (トン/百万円)	3.6%増 (12.4%増)	●
5: VOC(揮発性有機化合物)の削減	VOC大気排出量の削減 (国内生産拠点)	2000年度に対し、2010年度までに30%削減	47トン	33トン	39トン (43トン)	16.0%減 (9.4%減)	☆☆
6: 有害物質の使用廃止	保管中のPCB含有機器を日本環境安全事業(株)のエリア別事業開始にあわせ無害化処理を行う	甲府カシオ保管分無害化処理は2008年度までに実施する	—	—	処理委託申請済み、受入可能となるまで保管を継続	—	—
7: PRTR法対象化学物質の排出量削減	対象化学物質の排出量削減(国内生産拠点)	実質生産高原単位を2003年度に対し、2012年度までに40%削減	0.00011 (トン/百万円)	0.00006 (トン/百万円)	0.00004 (0.00004) (トン/百万円)	61.3%減 (1.7%減)	☆☆☆
8: グリーン調達	グリーン部品回答率(調査対象部品に対する回収率)を100%とする(国内・海外拠点)	2008年度国内回答率100% 2008年度海外回答率100%	—	100%	100%	—	☆☆☆
9: グリーン購入	文具・事務用品・OA機器類のグリーン購入比率70%とする(国内拠点)	2008年度購入比率(件数ベース)70%	—	70%	72.7%	—	☆☆☆
10: 物流温暖化対策	CO <sub>2</sub> 発生量の削減 (国内物流)	国内売上高原単位で2000年度に対し、2009年度に40%削減	1.14 (トン/億円)	0.68 (トン/億円)	0.72 (0.67) (トン/億円)	36.7%減 (7.4%減)	☆☆
	CO <sub>2</sub> 発生量の削減 (海外物流)	海外売上高原単位で2004年に対し、2009年度に5%削減	17.13 (トン/億円)	15.78 (トン/億円)	18.50 (18.07) (トン/億円)	8.0%増 (2.4%増)	●

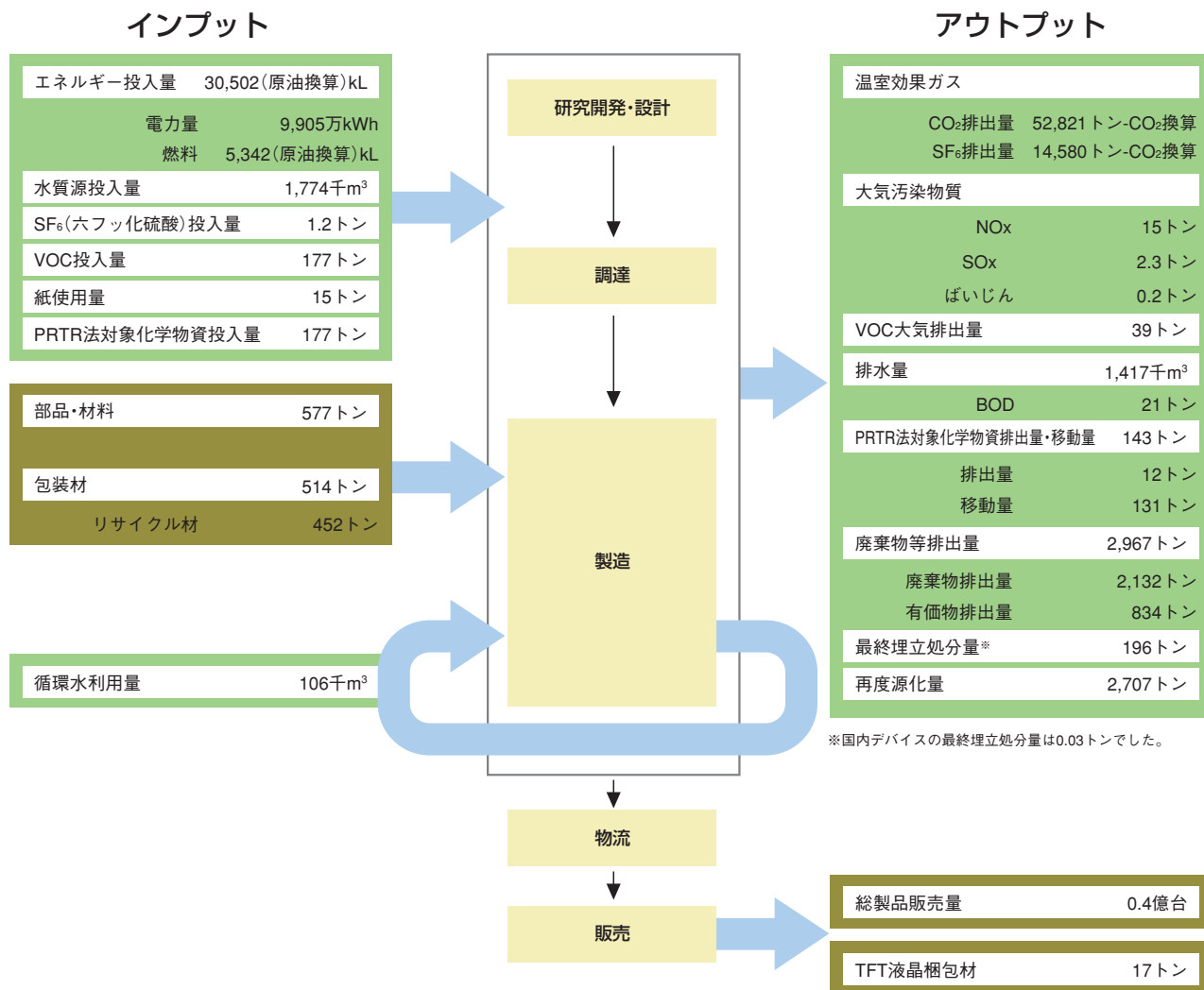
\*物流温暖化対策は国内・海外ともに、削減対象範囲は製品・販売物流を表す。

- 達成度評価基準
- (1) 目標値を達成しかつ、新たに高い目標値が設定された ☆☆☆☆
  - (2) 目標値を達成した ☆☆☆
  - (3) 目標値は未達成だが、前年度よりは着実に改善された ☆☆☆
  - (4) 目標値に向かって推進中であり、次年度以降に成果が見込まれる ☆
  - (5) 基準値と同等かまたは悪化している ●

## エレクトロニクス機器事業のマテリアルバランス

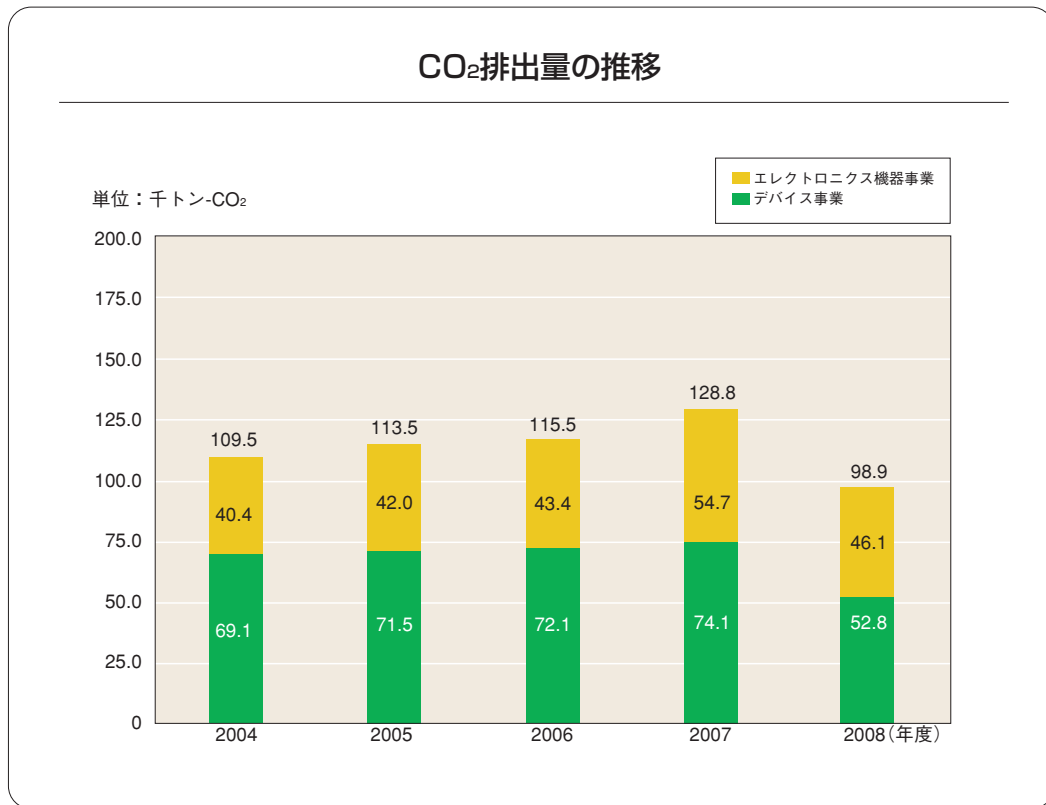


## デバイス事業のマテリアルバランス



■ 事業所のマテリアルバランス ■ 製品のマテリアルバランス

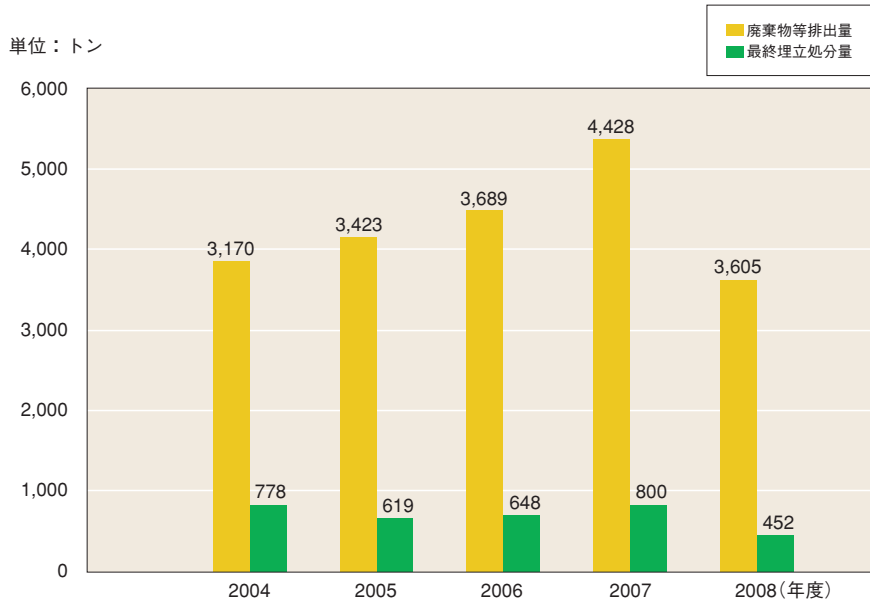
□「デバイス事業」対象拠点は以下です。  
 甲府カシオ(本社・一宮)、高知カシオ、カシオマイクロニクス(第一工場/本社・第二工場)、  
 カシオ計算機八王子技術センター、カシオインドネシア  
 (なお、上記以外はすべて「エレクトロニクス機器事業」対象拠点です。)



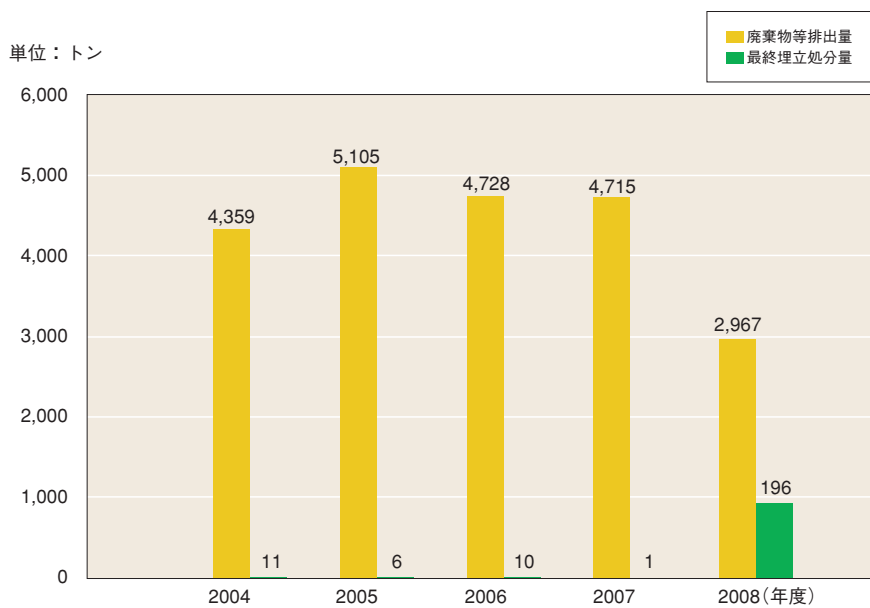
※エネルギー起源（電力、燃料など）によるCO<sub>2</sub>排出量の推移です。



## 事業活動別 廃棄物等排出量・最終埋立処分量の推移 (エレクトロニクス機器事業)

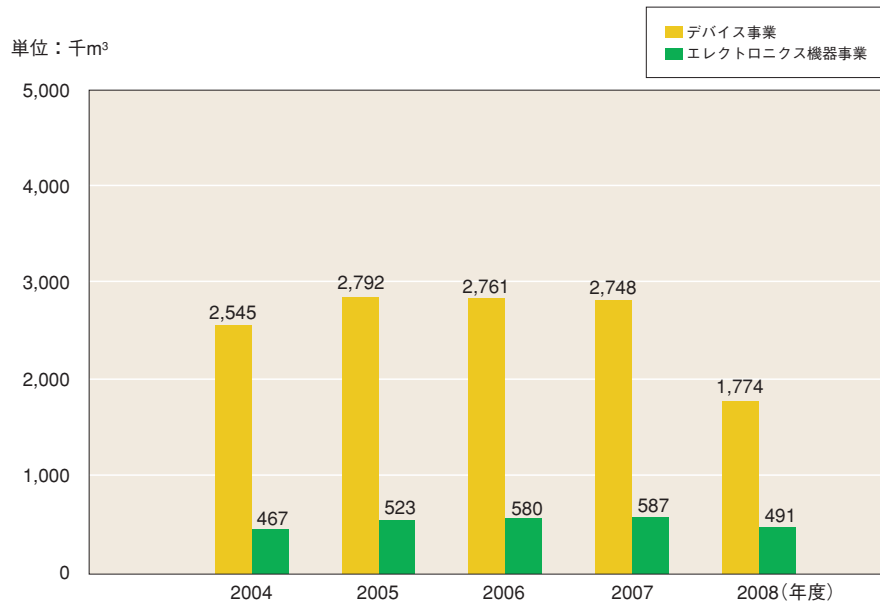


## 事業活動別 廃棄物等排出量・最終埋立処分量の推移 (デバイス事業)



※2008年度から海外工場追加。国内デバイスの最終埋立処分量は0.03トンでした。

## 水資源利用量の推移



2008年度 PRTR法対象化学物質の取扱量と排出量・移動量 (国内生産拠点)

(単位:トン)

第一種指定化学物質名 <sup>※1</sup>	物質番号	1トン以上の取扱事業所	取扱量	排出量		除去処理量	移動量 廃棄量	消費量	リサイクル量
				大気	公共用水域				
フッ化水素およびその水溶性塩 <sup>※2</sup>	283	1	115.16	0.04	2.54	—	108.15	—	4.43
2-アミノエタノール	16	2	33.21	0.06	—	11.40	4.56	—	17.19
キシレン	63	1	18.44	8.17	—	—	10.27	—	—
エチレングリコール	43	2	5.89	—	—	—	5.89	—	—
エチルベンゼン	40	1	2.94	1.29	—	—	1.65	—	—
ベンゼン	299	0	0.97	—	—	0.97	—	—	—
鉛およびその他の化合物	230	0	0.39	—	—	—	—	0.26	0.13
ニッケル化合物	232	0	0.36	—	—	—	0.36	—	—
トルエン	227	0	0.06	0.06	—	—	—	—	—
合計			177.42	9.62	2.54	12.37	130.87	0.26	21.75

※1 昨年度報告した以下の化学物質は、次の理由で取扱量が0になりました。

(1) 酢酸2エトキシエチル：昨年度までに代替材への切り替えが完了したため。

(2) 銅水溶性塩、チオ尿素、有機スズ化合物、オクチルフェニルエーテル：取扱工場の第三者譲渡のため。

※2 フッ化水素およびその水溶性塩は2007年度と比較してデバイスの薄型化拡大のため取扱量は42%増加しましたが、排出量は11%増加に抑えています。

●表組みの中で項目の合計が合わない場合がありますが、端数処理の関係です。

2008年度 VOCの使用量と大気排出量(生産拠点・オフィス拠点合計)

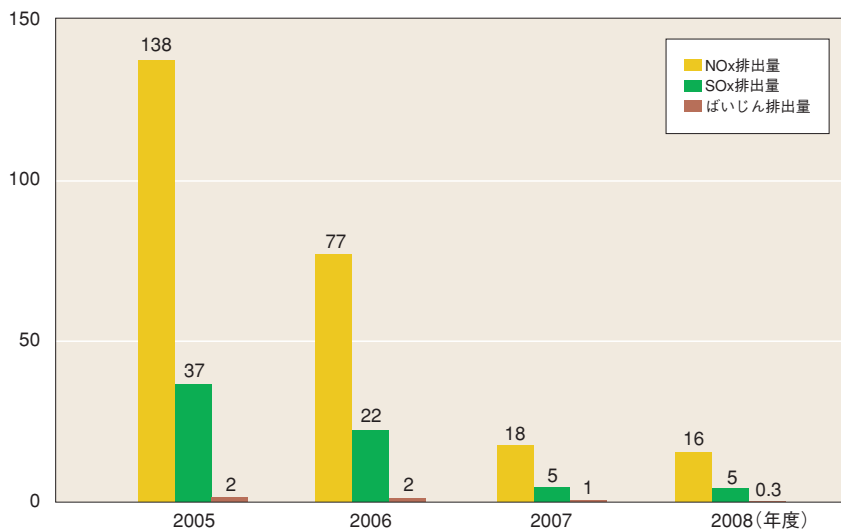
(単位：トン)

VOCの種類	取扱量	大気への排出量	備考
イソプロピルアルコール	116.9	17.5	
トルエン	0.1	0.1	※
アセトン	14.0	9.3	
酢酸ブチル	6.9	0.7	
メタノール	0.3	0.3	
キシレン	18.5	8.2	※
エタノール	10.8	2.1	
エチルベンゼン	2.9	1.3	※
1-メトキシ-2-プロパノール	7.0	0.2	
合計	177.5	39.7	

※はPRTR法対象化学物質

NOx、SOx、ばいじんの大気排出量の推移

単位：トン



>>P48 「VOCの削減」「NOx、SOx、ばいじんの削減」